

コロナ後の旅行行動変化と地域観光における連携の必要性 —近畿圏居住者を対象とした意識調査—

北九州市立大学大学院マネジメント研究科 特任教授 幕 亮二
佐賀大学経済学部 4年生 中村 祐斗

1. はじめに

高速交通機関の選択行動における、いわゆる「4 時間の壁」とは、航空機利用と鉄道利用の優位性の分岐点を指すものである。筆者は、在京のシンクタンクに四半世紀勤め、齢知命を迎え J ターンし佐賀市内で起業、昨年来の新型コロナウイルス感染拡大により頻度は極端に少なくなったものの、九州各地のみならず在京・在阪のシンクタンク時代のクライアントの間を飛び回りつつ、北九州市立大学大学院マネジメント研究科というビジネススクール（MBA コース）で教鞭も取っている。航空・空港関係の仕事上の付き合いが多い筆者でさえ、乗り換え時間を含め所要時間が 4 時間以内の場所への出張では、鉄道利用を先ず計画する。在来特急より遅延リスクが少ない新幹線が整備されていれば、なおさらである。

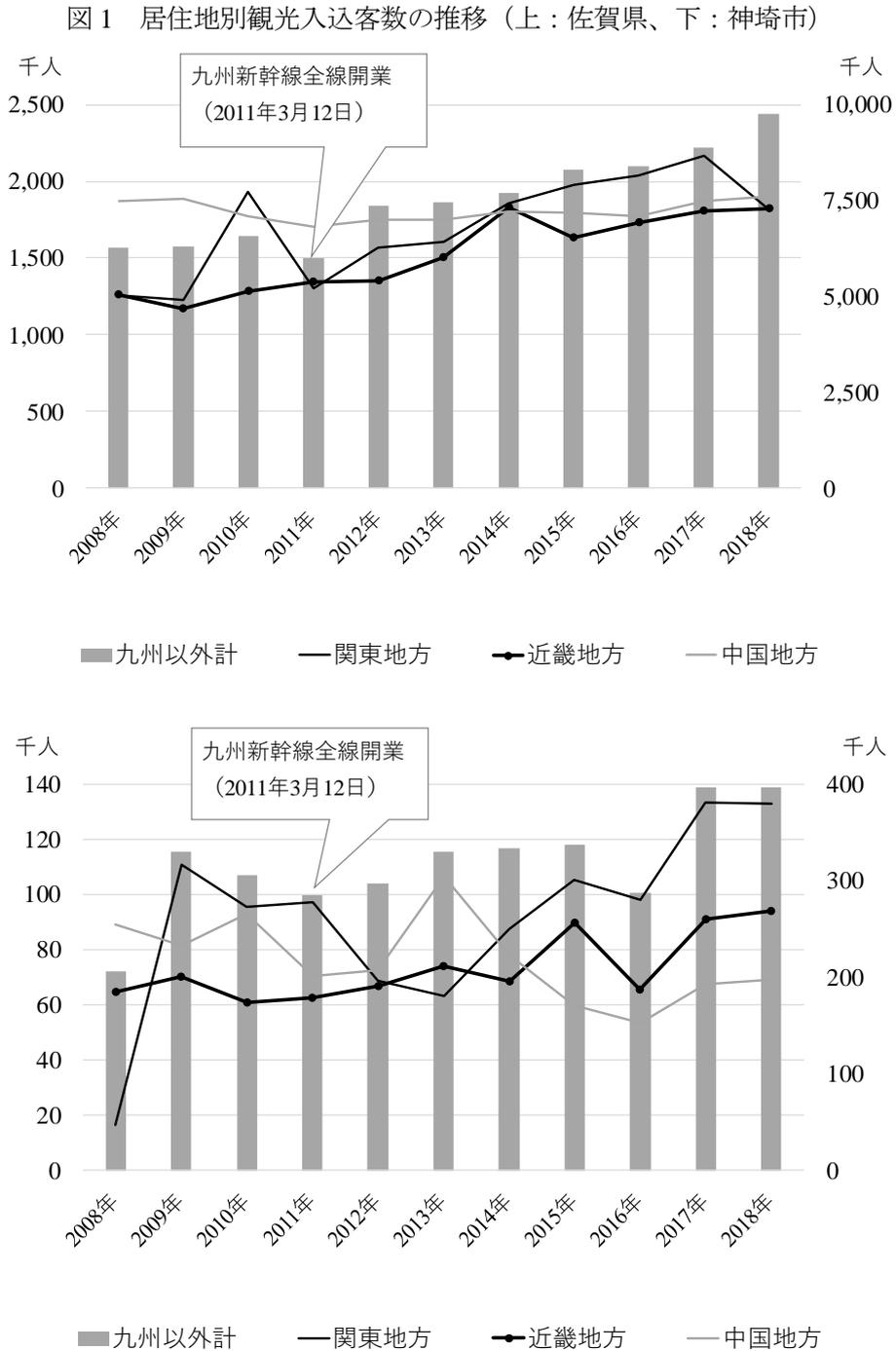
九州新幹線西九州ルートは、2022 年秋に長崎—武雄温泉間が対面乗換方式（リレー方式）で開業予定である。整備方式に関する議論には触れないが、長崎—新大阪間の所要時間がちょうど 4 時間に短縮されると言われている。佐賀在住の筆者にとって、クライアントが待つ大阪（梅田）まで、在来線の遅延リスクや新鳥栖駅での乗り換え時間を大目に見ると、現状では約 4 時間かかるというのが実感である。そのため、出張時の利用交通機関選択肢の拡大として、佐賀空港の開港時にあった佐賀—伊丹便の復活を待ち望むひとりでもある。とはいえ、新幹線直通ではないものの、既に鉄道利用で「4 時間の壁」を切っている近畿圏は、当面、訪日外国人旅行者の戻りが見込めない中、佐賀県各所の観光地にとって最も重要な市場のひとつである。

本稿は、近畿圏 2 府 2 県（京都府、大阪府、兵庫県、奈良県）の 30 歳以上の男女を対象にした、コロナ後の旅行行動変化に関するアンケート結果をもとに、佐賀県の観光産業の課題を検討するとともに、佐賀県神埼市の九年庵を活用した観光商品の市場性について、仮想評価法（CVM : Contingent Valuation Method）によって評価する。

2. 近畿圏市場の特徴

2.1 佐賀県・神崎市観光入込客数における近畿圏市場

図1は、2008～18年における佐賀県及び神崎市に対する九州外の居住地からの観光入込客数の推移を地域市場別に見たものである。



注：左軸は折れ線グラフの目盛であり、右軸棒グラフの目盛である。

出所：佐賀県地域交流部観光課（各年版）に基づき筆者作成

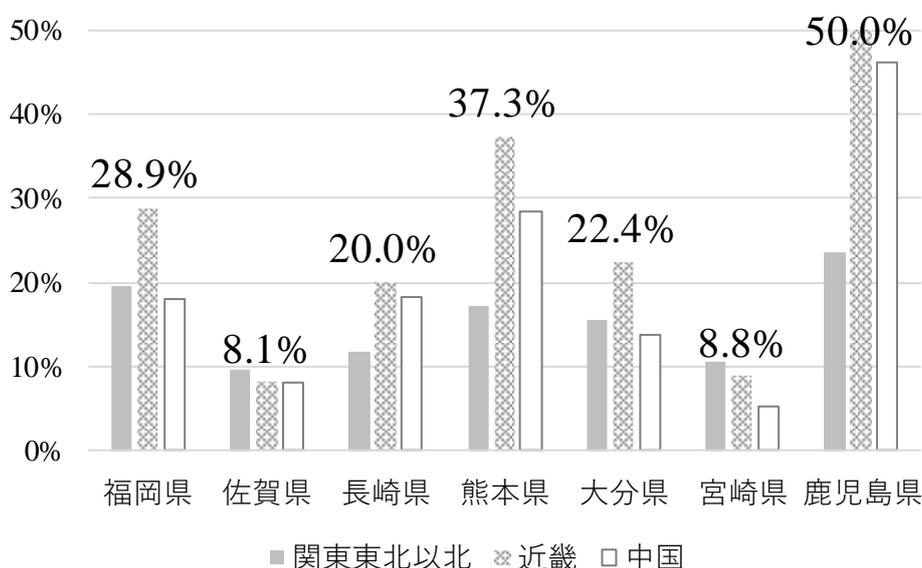
佐賀県全体としては、2008年時は距離的に近い中国地方からの観光入込客数が、九州外からの観光入込客数として最も多かったが、同数が横ばいで推移する一方、2011年の九州新幹線鹿児島ルート全線開業以降、関東地方・近畿地方からの同数が徐々に増加し、構成比で逆転が見られるようになり、さらに重要な市場となっていることがわかる。

神崎市においても、中国地方からの観光入込客数が徐々に減少傾向となる一方、とくに関東地方からの同数が大幅に増加し、構成比において中国地方は関東地方の約半分となっている。近畿地方からの観光入込客数は上図の佐賀県全県合計値に比べ安定した増加傾向とは言えないものの、中国地方の構成比を超え関東地方に次ぐ構成比となっている。また、九州新幹線鹿児島ルート全線開業による観光入込客数の増加は、佐賀県合計値の推移のような安定的な増加傾向とは言えないものの、関東地方・近畿地方ともに近年大きく増加しており、神崎市においても重要な市場となっていることがわかる。

2.2 九州新幹線鹿児島ルート全線開業による九州各県の観光産業への効果

九州新幹線鹿児島ルート全線開業から3年が経過した2013年に、国土交通省九州運輸局が、各県の大手・中堅宿泊施設や主要な観光施設を対象にアンケート調査を行っている。図2は、この新幹線全線開業による来訪客の変化に関するアンケート調査において、来訪者の居住地別に同数が増加した（他の選択肢は、減少した／変わらない又はもともと来ていない／わからない）と回答した標本が各都道府県の標本全体に占める構成比（回答率）である。

図2 新幹線全線開業による来訪客の変化



出所：国土交通省九州運輸局（2014）に基づき筆者作成

九州新幹線鹿児島ルート全線開業による時間短縮効果の大きな沿線地域である熊本県や鹿児島県において高い回答率となっている。来訪者の居住地別に見ると、佐賀県や宮崎県以外の県で、近畿圏からの来訪者数が増加したとする回答率が最も高くなっている。佐賀県における同回答率は最も低く、約8%に留まっている。

新鳥栖駅が所在している佐賀県も、熊本県や鹿児島県ほどの時間短縮効果はないものの、乗り換えなしで近畿圏と高速鉄道で移動できるようになった沿線地域である。しかし、全線開業3年後の時点では、佐賀県がその効果を十分に取り込めていなかったことがわかる。

3. アンケート調査の概要と結果

3.1 調査の概要

2020年8月に実施した「佐賀県神埼市の観光に関するアンケート調査」は、近畿圏2府2県（京都府、大阪府、兵庫県、奈良県）の居住者の他、同様の調査票で北部九州地方居住者に対しても調査を実施した。本稿は、このうち近畿圏の調査対象の回答結果をもとに考察を加えた。

年齢分布では、60歳以上が252人（40.0%）で最も多く、50～54歳が73人（11.6%）、45～49歳が68人（10.8%）、35～39歳が66人（10.5%）で続いている（表1）。なお、調査にあたって、性別・年齢階級別に一定数（N>20）を確保できるようモニターリクルートを調整している。

表1 アンケート調査の概要

実施期間	2020年8月14日（金）～8月15日（土）
実施方法	登録モニターを対象とするインターネットアンケート ※九年庵のプロモーションビデオを見た上で回答してもらう。
調査対象	近畿圏2府2県（京都府、大阪府、兵庫県、奈良県）の30歳以上の男女（N=630）
主な設問	<ul style="list-style-type: none"> ・移動行動（ウォーキング経験の有無含） ・旅行行動（実績及びコロナ後の意向） ・九年庵の認知度や訪問意向 ・九年庵を活用した観光商品に対する支払意思額に関する設問（CVMによる評価のための設問）

表2 アンケート回答者の年齢分布

	人数	%
30～34歳	60	9.5
35～39歳	66	10.5
40～44歳	58	9.2
45～49歳	68	10.8
50～54歳	73	11.6
55～59歳	53	8.4
60歳以上	252	40.0
合計	630	100.0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

3.2 回答者の特徴

回答者の居住地分布は、大阪府が 319 人 (50.6%) で最も多く、次に兵庫県が 185 人 (29.4%) であった。2 県の合計で全体の約 80% を占める (表 3)。

表 3 アンケート回答者の居住地分布

	人数	%
京都府	78	12.4
大阪府	319	50.6
兵庫県	185	29.4
奈良県	48	7.6
合計	630	100.0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

回答者の家族構成は、未婚者が 175 人 (27.8%)、既婚者が 455 人 (72.2%)。子供のない回答者は未婚・既婚含め 219 人 (34.8%)、子供のある回答者は同 411 人 (65.2%) である (表 4)。

表 4 アンケート回答者の家族構成

	人数	%
未婚	175	27.8
既婚	455	72.2
合計	630	100.0

	人数	%
子供なし	219	34.8
子供あり	411	65.2
合計	630	100.0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

回答者の世帯年収分布は、年収 600 万円未満までで回答者全体の 50% 以上 (53%)、同 800 万円未満までで同 7 割弱 (68.6%)、同 1,000 万円未満までで同 8 割弱 (77.2%) を占める。世帯年収 1,000 万円以上の回答者は全体の 6.5% である (表 5)。

表5 アンケート回答者の世帯年収分布

	人数	%
200万未満	44	7.0
200～400万円未満	147	23.3
400～600万円未満	143	22.7
600～800万円未満	98	15.6
800～1,000万円未満	54	8.6
1000～1,200万円未満	19	3.0
1200～1,500万円未満	13	2.1
1,500～2,000万円未満	5	0.8
2,000万円以上	4	0.6
合計（不詳・無回答含）	630	100.0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

3.3 観光行動とコロナ後の変化

(1) 過去1年間の旅行経験

前年（2019年）1年間の国内旅行回数を見ると、全く出かけていない人が254人（40.3%）と最も多かった（表6）。一方、出かけた人については、1回が最も多く162人（25.7%）、次いで2回が105人（16.7%）であった。

表6 前年（2019年）1年間の国内旅行回数

	人数	%
0回	254	40.3
1回	162	25.7
2回	105	16.7
3～5回程度	92	14.6
6回以上	17	2.7
合計	630	100.0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

また、旅行に出かけた人に対し、その主な同行者を尋ねたところ、家族が268人（42.5%）と最も多く、次いで友人が59人（9.4%）であった（表7）。一人旅は22人（3.5%）と少なく、職場関係やサークルといった団体での旅行はそれぞれ約1%とさらに少ない。

表7 旅行時の主な同行者

	人数	%
一人旅	22	3.5
友人	59	9.4
恋人	12	1.9
家族（配偶者も含む）	268	42.5
職場関係の団体	8	1.3
サークルなどの団体	7	1.1
無回答	254	40.3
合計	630	100.0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

新型コロナウイルス感染症が克服された後の旅行に対する態度を尋ねたところ、「感染症流行以前ほど旅行には出かけないだろう」と回答した人が243人(38.6%)、「どちらとも言えない」が101人(16.0%)、「わからない」が75人(11.9%)と新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて旅行活動にネガティブな気持ちを持つ人が半数以上を占める一方、「感染症流行以前の計画以上に積極的に観光地を訪問する」というポジティブな回答も136人(21.6%)と一定数おり、「感染症流行以前の計画のまま変わらない」と回答した人が44人(7.0%)と選択肢中最も少なかった。GoToキャンペーン等地域の観光振興に向けた施策に後押しされるなか、むしろコロナ後の大きく変わる観光行動に如何に観光地がアピールできるかが課題となると考えられる(表8)。

表8 新型コロナウイルス終息後の観光行動に対する考え

	人数	%
感染症流行以前の計画のまま変わらない	44	7.0
感染症流行以前の計画以上に積極的に観光地を訪問する	136	21.6
感染症流行以前ほど旅行には出かけない	243	38.6
どちらとも言えない	101	16.0
わからない	75	11.9
無回答	31	4.9
合計	630	100.0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

(2) 観光旅行において重視する項目

日本国内での観光旅行に出かける際、目的地の選択において重要視する項目を尋ねた。最も多かったのが、「観光地（現地）へのアクセス」の559(回答率88.7%)人である(表7)。続いて「現地で散策

できる」の414人（同65.7%）、「現地での交通手段の良さ」の377人（同59.8%）となっており、交通利便性を重視する傾向がわかる（表9）。また、「感染症対策が整っている」が275人（同43.7%）とこれらに次いで多く、今後の観光地選択における重要要素となると考えられる。

表9 観光目的地選択の際に重視する項目（複数回答）

	人数	%
観光地（現地）へのアクセス	559	88.7
現地での交通手段の良さ	377	59.8
現地で散策できる	414	65.7
Wi-Fi環境が整っている	60	9.5
キャッシュレス決済ができる	68	10.8
感染症対策が整っている	275	43.7
ロコミサイトなどが充実している	113	17.9
その他	24	3.8

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

3.3 佐賀県への観光について

これまで佐賀県を訪れたことがあるかどうか尋ねたところ、6割以上の方は訪問経験が無いと回答している。訪問回数1回と回答した人は133人（21.1%）で、一方訪問回数2回以上のリピーターとして複数回訪問している人も合わせて90人（14.3%）であった（表10）。

表10 佐賀への訪問回数

	人数	%
0回	404	64.1
1回	133	21.1
2回	43	6.8
3～5回程度	35	5.6
6回以上	12	1.9
居住、通勤・通学経験がある	3	0.5
合計	630	100.0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

また、佐賀県来訪の際に訪れた場所を見ると、嬉野・武雄温泉の79人が最も多く、次いで、有田陶器市と吉野ヶ里歴史公園が60人、呼子59人となっている（表11）。

表 11 佐賀での訪問先（複数回答）

訪問先	延べ人数
佐賀インターナショナルバルーンフェスタ	3
唐津くんち	30
鳥栖プレミアムアウトレット	12
有田陶器市	60
嬉野・武雄温泉	79
祐徳稲荷神社	16
御船山楽園	9
吉野ヶ里歴史公園	60
呼子	59
九年庵	7

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

3.4 九年庵への観光について

(1) 九年庵に対する認識

アンケート調査では、回答者に九年庵を紹介する約3分半の動画を視聴してもらった後で、九年庵に関連する質問を行った。動画は、九年庵の全景と内部の映像を中心に、周辺の空撮映像、周辺の観光スポット（仁比山神社や吉野ヶ里歴史公園）の画像、ロケーションマップ、アクセス情報で構成されている。

今回の調査以前に九年庵を知っていたかどうかを見ると、「全く知らなかった」が552人（87.6%）と8割以上を占めた（表12）。知っているとした回答者の中でも、「名前を知る程度」が32人（5.1%）、「少し知っていた」が5人（0.8%）であり、「詳しく知っていた」という回答者は3人（0.5%）と僅かであり、ほぼ認知されていない現状があきらかとなった。

表 12 九年庵に対する認識

	人数	%
全く知らなかった	552	87.6
あまり知らなかった	31	4.9
名前を知る程度	32	5.1
少し知っていた	5	0.8
詳しく知っていた	3	0.5
無回答	7	1.1
合計	630	100.0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

(2) 九年庵への訪問意向

動画を見て、九年庵及び周辺地域に旅行で訪れてみたいと思ったどうかをたずねたところ、「非常にそう思う」と回答した人が40人(6.3%)、「ややそう思う」が221人(35.1%)、一方否定的な回答は「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」を合わせて204人(32.3%)であり、ほぼ拮抗しており強い来訪意向は確認できなかった(表13)。

表13 九年庵及び周辺地域への訪問意向

	人数	%
非常にそう思う	40	6.3
ややそう思う	221	35.1
どちらでもない	165	26.2
あまりそう思わない	125	19.8
全くそう思わない	79	12.5
合計	630	100.0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

次に、神崎市やその周辺に観光で訪れるとした場合の宿泊意向について質問を行った。その結果、「嬉野温泉・武雄温泉」と回答した人が253人(40.2%)で最も多かった。次いで、回答者居住地である近畿圏と神崎市との移動経路途中に当たる「福岡県内」と回答した人が99人(15.7%)、さらに足を伸ばした「長崎県内」が54人(8.6%)と、周遊観光を想定した回答が次いで多かった。

表14 神崎市への宿泊観光意向及び希望する宿泊地

	人数	%
日帰りするので宿泊はしない	65	10.3
神崎市	39	6.2
佐賀市	58	9.2
上峰町・吉野ヶ里町	11	1.7
嬉野温泉・武雄温泉	253	40.2
唐津市	13	2.1
長崎県内	54	8.6
福岡県内	99	15.7
熊本県内	12	1.9
上記以外の九州内	22	3.5
九州以外	4	0.6
合計	630	100.0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

また、神埼市内あるいは周辺の佐賀市、上峰町・吉野ヶ里町と回答した人も、合わせれば 108 人 (17.1%) となり、神埼市周辺に宿泊し余裕のある旅程を提案できる可能性が示唆された。新型コロナウイルス感染症の影響もあってか、「日帰りをするので宿泊はしない」と回答した人も 65 人 (10.3%) いた (表 14)。

4. 神埼市と吉野ヶ里町の観光資源に対する支払い意思額

4.1 九年庵の観光活用

現在、九年庵に入園できるのは、春と秋の一般公開期間の限られた時間帯 (8:30~16:00) のみで、美化協力金という名目で 400 円の入園料を支払うことになっている。この時期以外の観光活用の可能性を探ることを目的に、この期間・時間帯以外に有料で入園できる 3 つのパターンを仮想的に設定し、それぞれの訪問意向に関して質問を行った (表 15)。

表 15 九年庵への入園パターンと訪問意向 (複数回答)

入園パターン	人数	%
周辺の提携宿泊施設の宿泊客限定で、早朝 (午前 8 時前)・薄暮 (午後 4 時以降) の入園が可能となる	244	38.7
年間を通じ郷土史等の生涯学習講座を受講することを条件に、一般公開期間外の入園が可能となる	54	8.6
ボランティアで施設の清掃に協力することを条件に、早朝 (午前 8 時前)・薄暮 (午後 4 時以降) の入園が可能となる	49	7.8

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

「周辺の提携宿泊施設の宿泊客限定で、早朝 (午前 8 時前)・薄暮 (午後 4 時以降) の入園が可能となる」場合に参加してみたいと回答した人が 244 人 (回答率 38.7%) で最も多かった。「年間を通じ郷土史等の生涯学習講座を受講することを条件に、一般公開期間外の入園が可能となる」や「ボランティアで施設の清掃に協力することを条件に、早朝 (午前 8 時前)・薄暮 (午後 4 時以降) の入園が可能となる」場合に参加してみたいと回答した人はいずれも回答率 10%以下と少ない。

4.2 九年庵と周辺観光に対する支払い意思額

さらに、観光活用の際の具体的な料金について検討を行うために、九年庵及び周辺観光の費用負担に関して質問を行った。ここでは、CVM のダブルバウンド方式 (二段階二肢選択方式) を採用し、①九年庵に入園できる仮想の条件、②周辺観光に関する仮想の条件をそれぞれ設定し、それに応じた支払い意思額について質問を行った。各設問文は以下の通りである。

【九年庵に関する設問】現在、九年庵には春と秋の一般公開期間に入園料 400 円で、順路に沿って庭園を約 30 分で見回れます。九年庵の庵を改修し、庵でお茶を飲みゆっくり鑑賞できるメニューを作った

場合、入場料〇〇円で入場しますか。

【周辺観光に関する設問】吉野ヶ里歴史公園、九年庵と近くの嘉瀬川ダムをめぐる緑と水の日帰りバスツアー料金が10,000円の場合、このバスツアーに参加しますか（博多駅発着の日帰り旅で、昼食代を含みます）。

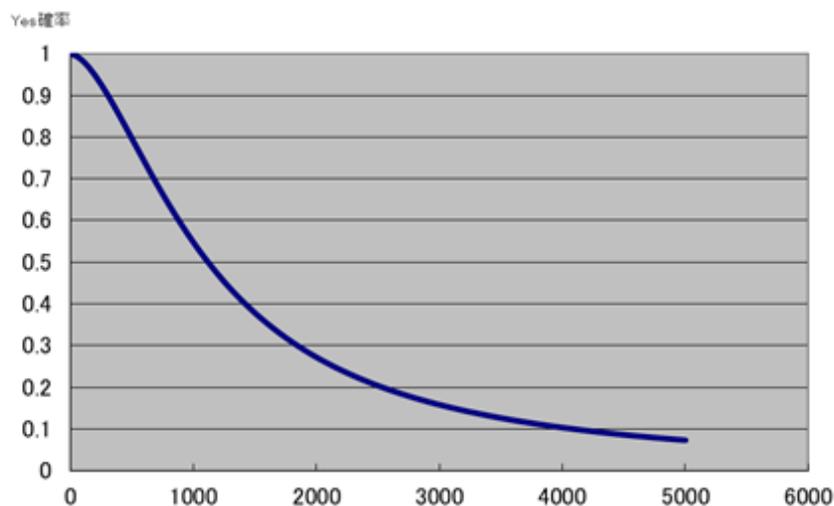
これらの設問について、1回目の提示額に対する支払いを受容した回答者にはさらに高い金額を、1回目の提示額への支払いを受容しなかった回答者にはより低い金額を提示した。提示する金額は各設問で3パターン用意した。得られた回答をもとに、対数線形ロジットモデルを用いて支払い意志額の推定を行った。推計にあたっては、栗山（2012）のCVM計算ツールを用いた。

(1) 九年庵に入園できる仮定の条件の場合の結果

図3及び表16は、アンケートデータに基づく設問①に関するロジット分析の推定結果を示している。提示額の対数値 $\ln(\text{Bid})$ 値の係数の符号がマイナスであるため、提示額が大きくなるほど、回答者の効用が低下して、Yes回答が得られる確率が低下することを示している。

分析結果から回答者全体の支払意思額の中央値は1,120円、平均値は2,163円と読み取れる。つまり、1,120円を提示したとき、Yes回答とNo回答の効用が等しくなる。平均値が中央値よりも高いことから、高い代金を支払ってでも、提示したメニューを享受したい人がいることが明らかとなった。

図3 九年庵に入園できる仮定の条件に関するCVMの推定結果



出所：アンケート結果より筆者作成

表 16 九年庵に入園できる仮想の条件に関する推定結果と推定支払意思額

推定結果

変数	係数	t値	p値
constant	11.8985	14.520	0.000 ***
ln(Bid)	-1.6946	-15.450	0.000 ***
n	630		
対数尤度	-697.284		

推定WTP

(中央値)	1,120	
(平均値)	2,163	裾切りなし
	1,605	最大提示額で裾切り

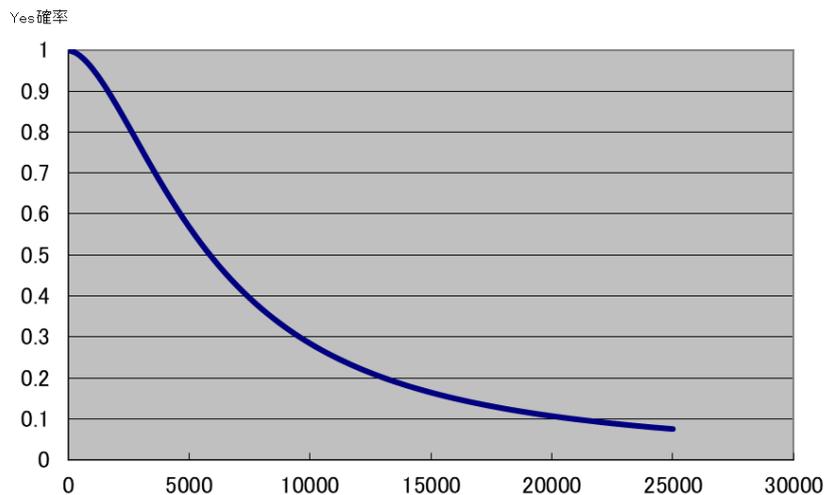
出所：アンケート結果より筆者作成

(2) 周辺観光に関する仮想の条件の場合の結果

図 4 及び表 17 は、アンケートデータに基づく設問②に関するロジット分析の推定結果を示している。提示額の対数値 ln (Bid) 値の係数の符号がマイナスであるため、提示額が大きくなるほど、回答者の効用が低下して、Yes 回答が得られる確率が低下することを示している。

分析結果から回答者全体の支払意思額の中央値は 5,862 円、平均値は 10,941 円と読み取れる。つまり、5,862 円を提示したとき、Yes 回答と No 回答の効用が等しくなる。平均値が中央値よりも高いことから、高い代金を支払ってでも、吉野ヶ里公園、九年庵と近くの嘉瀬川ダムをめぐる緑と水の日帰りバスツアーに参加したい人がいることが明らかとなった。

図 4 周辺観光に関する仮想の条件に関する CVM の推定結果



出所：アンケート結果より筆者作成

表 17 周辺観光に関する仮想の条件に関する推定結果と推定支払意思額

推定結果

変数	係数	t値	p値
constant	15.0399	13.630	0.000 ***
ln(Bid)	-1.7335	-14.325	0.000 ***
n	630		
対数尤度	-642.978		

推定WTP

(中央値)	5,862
-------	-------

(平均値)	10,941	裾切りなし
	8,246	最大提示額で裾切り

出所：アンケート結果より筆者作成

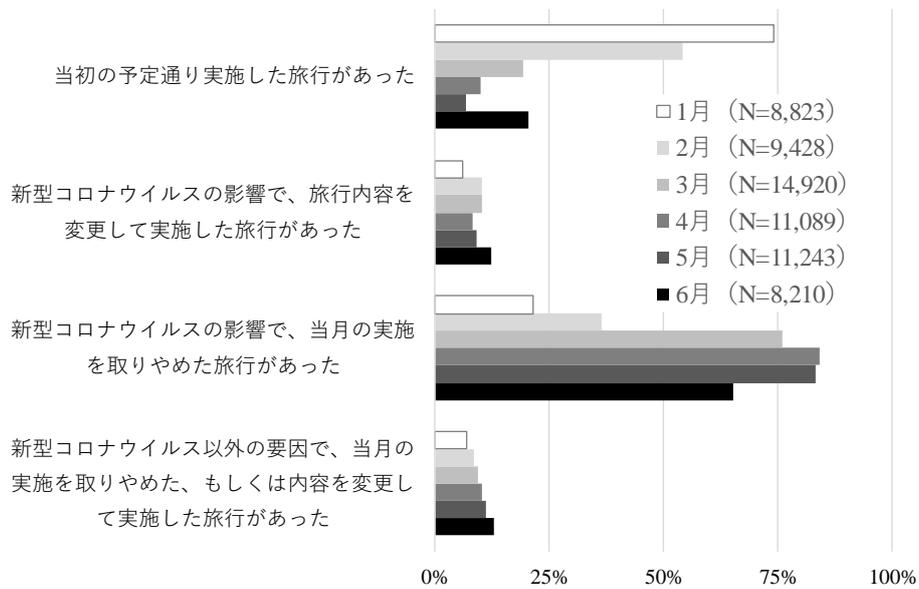
5. おわりに

近畿圏2府2県（京都府、大阪府、兵庫県、奈良県）の30歳以上の男女を対象にしたアンケート結果から、近畿圏市場における神崎市の認知度が現状では低いことがわかった。しかし、神崎市が誇る観光資源である九年庵を活用した観光商品に対しては、一定の付加価値を認め対価としての支払い意思額があることがわかった。このことは、九年庵や周辺観光にいわば潜在市場があることを示唆している。

図5は、コロナ後の旅行行動変化に関する全国を対象に、感染拡大後毎月実施されているアンケートの結果である。2020年1月以降徐々に予定していた観光旅行を取りやめる比率は高まり、1回目の非常事態宣言が出された（2020年4月）の前月である3月には、予定通り観光旅行に行くよりも取りやめる比率の方が上回っている。その後緊急事態宣言が全面解除されたものの、「GoToキャンペーン」のトラベル事業開始前の6月までは半数以上が観光旅行を取りやめる状態が続いていた。

今回のアンケートにおいても、アフターコロナの旅行計画はそれ以前とは行動様式が異なる可能性が示唆されており、「GoToキャンペーン」のトラベル事業が再開しても、観光地におけるオーバーツーリズムによる三密を回避する感染症対策を徹底し、これをターゲットとする市場に対してアピールしていくことが求められる。九年庵においても、入場者の混雑を避けるための早朝・薄暮を活用した新たな観光商品等の企画・催行について検討していくべきと考える。

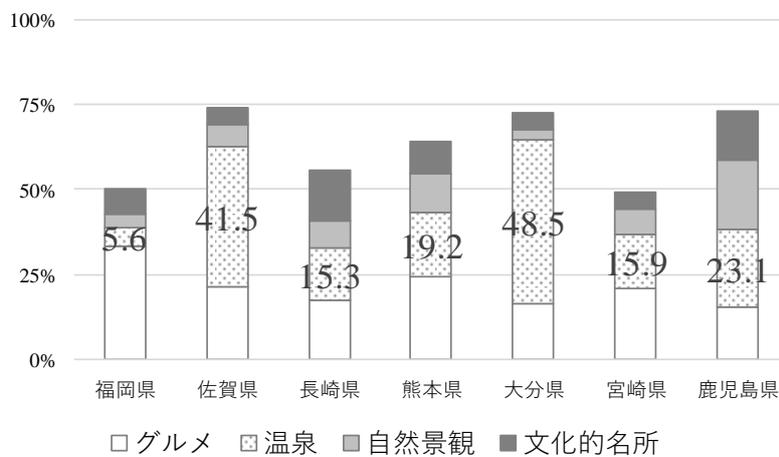
図5 新型コロナウイルスの影響で中止・延期した観光旅行の有無



出所：公益財団法人日本交通公社（2020）に基づき筆者作成

今回のアンケートにおいて、佐賀県への訪問経験者の多くが嬉野・武雄温泉を訪問していたことが示された。日本交通公社（2020）の全国を対象とした調査結果で佐賀県を詳細に見ると、大分県と並び旅行者が訪問先で最も楽しんでいるのは温泉となっている（図6）。マスクを外し不特定多数の他人と接近する可能性の高い大浴場は、感染症対策の最も難しい空間のひとつである。福岡都市圏のように隣県で気軽に訪問できる日帰り需要が中心の市場と異なり、地域への経済波及効果の大きい宿泊観光誘致市場であるため、家族旅行の多い近畿圏市場に対しては、家族風呂や宿所についても家族や同行者だけの少人数で泊まれる離れのような設えをアピールすることが有効と考える。

図6 旅行先県別の最も楽しみにしていたこと



出所：公益財団法人日本交通公社（2020）より筆者作成

今回のアンケートにおける現状の認知度や来訪意向を鑑みると、九年庵訪問のみを目的とした観光旅行を、近畿圏市場をターゲットにアピールすることは、かなり困難と言わざるを得ない。しかし、仮に神崎市を訪問するとした際に宿泊地として想定する先が、回答者の宿泊施設集積状況に関する保有情報の有無は不詳だが、神崎市内から周辺の佐賀市、吉野ヶ里町、上峰町といった広範囲なエリアで一定の回答数を得ていることは光明である。さらに、三密を避けた早朝・薄暮時間帯の九年庵訪問という近隣宿泊者に限定される観光商品に一定の評価が確認されたことから、神崎市は周辺市町の宿泊施設と連携し、宿泊観光で新たな付加価値を付与する旅行商品を企画・販促していくべきと考える。例えば、筆者が顧問を務める上峰町の佐賀県唯一の DMO である起立工商 DMO では、従前は割烹料理店であった大幸園の離れを改装し、家族やグループだけで泊まれるオーベルジュ（Auberge：フランス語で主に郊外や地方にある宿泊設備を備えたレストランを指す）に生まれ変わっている。このような周辺地域の施設と連携し、アフターコロナの観光行動に対応したアピールを行うことが重要と考える。

参考文献

栗山浩一（2012）「Excel でできる CVM Version4.0」

国土交通省九州運輸局（2014）「第 17 回九州地方交通審議会資料（九州新幹線鹿児島ルート全線開業 3 年間のまとめについて）」 <https://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/content/000014426.pdf>

佐賀県地域交流部観光課（各年版）「佐賀県観光客動態調査」

公益財団法人日本交通公社（2020）「旅行年報 2020」